

# 家庭学習の振り返りと自学ノートで 自ら学ぶ姿勢を身に付ける

## 福井県 敦賀市立中央小学校

学力は高いが、学習に意欲的に向かう姿勢に課題が見られた敦賀市立中央小学校。1年生から、家庭学習の様子を振り返るシートを活用して、自主学習を意識させると共に、3年生からは「自学ノート」で自分で考えた学習に取り組むことを習慣付けている。学年が上がるにつれて、次第に意欲的に自主学習に向かう習慣が定着しつつあるという。

### 取り組みのねらい

- 子どもが意欲的に学習に向かう姿勢を育てる
- 与えられたことに取り組むだけでなく、自ら求めて学ぶ子どもを育てる
- 保護者と目線を合わせて、共に子どもを育てる関係をつくる

### 取り組みの内容

- 全校の子どもや保護者を対象に家庭学習に関する実態調査を行い、指導内容を検討
- 家庭での学習や生活の計画を立てさせ、見通しを持って毎日を過ごさせる
- 学年が上がるにつれて、自ら課題を見付ける自主学習の割合を増やす

### 取り組みの成果

- 時間的な見通しを持てるようになり、家庭学習の時間を確保できるようになった
- 高学年では、進んで自主学習に向かう姿勢が定着しつつある

### S c h o o l D a t a

◎1982(昭和57)年開校。教育目標は「確かな学力と豊かな心でたくましく生きる子の育成」。福井県小中連携教育推進事業推進校として、地域の中学校と連携し教育力の向上に努める。



校長 中西恵一先生

児童数 542人 学級数 19学級(うち特別支援学級1)

所在地 〒914-0121 福井県敦賀市野神40-249

TEL 0770-24-0020

URL <http://edu.ton21.ne.jp/cyuo/>

公開研究会 未定

### ● 取り組みのねらい

### 意欲的に自ら学習できる 姿勢を身に付けてほしい

2013年度で創立32年を迎えた敦賀市立中央小学校は、敦賀市の中心部に位置する。創立時は水田に囲まれた環境だったが、次第に住宅地や商業地が開発され、今では県内外から多くの人が移り住む地域となっている。

子どもは落ち着いており、学力調査の結果も良いのだが、学習に向かう姿勢には課題を感じられると、中西恵一校長は話す。

「子どもたちの学力は高いのですが、学習にあまり意欲的に向かえていないようです。

# 家庭学習で学ぶ意欲を伸ばす

言わないと学習に取り組めない子どもも見られます」

保護者の子どもの教育へのかかわり方にも温度差がある。学習ボランティアなどへの参加に熱心で協力的な保護者がいる一方、保護者会にあまり参加せず、学校に任せたいという姿勢の保護者もいるため、保護者への働き掛けも、重要な取り組みと位置付けている。

## ● 取り組みの内容

### 「家庭でも自ら学べたか？」を1年生から振り返る

同校は、10年以上前から「自ら求めて学ぶ子の育成」をテーマに「授業」と「自主学習」の両面から研究に取り組んでいる。

「学校でも家庭でも、自ら求めて学ぶ子どもの育成を目指しています。そのためには、授業と家庭学習の双方を充実させ、相互の関連を深める必要があると考えています」（中西校長）

授業研究では、教師全員が年1回、公開授業を実施するなど組織的に取り組み、13年度は国語を中心に書く力の強化を図っている。特に、発問の工夫によって子どもの思考を促し、書くことで思考を整理させたり表現させたりする指導について研究する。

こうした授業改善と並行して進めている、自主学習力を伸ばす指導を紹介したい。中心となる取り組みは、「家庭学習チェック

カード」だ。これは、1週間単位で、生活や家庭学習について振り返り、記入するカードだ。全校児童とその保護者を対象に行った家庭学習に関する実態調査を踏まえて、12年度から年2回行っている。教務主任の滝本律子先生は次のように話す。

「調査結果で、家庭で学習しているものの、宿題が中心であり、自分から何かを学習することはあまりしていないと分かりました。また、規則正しい生活習慣が身に付いていない子どもも見られました。そこで、自分がどのように時間を使っているのかを意識させ、自分を律する力を付けさせたいと考えました」

家庭学習チェックカードは、1〜3年生用と4〜6年生用がある。共通する内容は、生活や家庭学習について振り返るチェック項目だ。「こういう姿勢を身に付けてほしい」という思いを込めて、「言われる前に、自分から進んで学習を始めた」「宿題以外の学習もした」などを設定して、毎日振り返らせている。

4〜6年生用には、学習する時間を見通せるよう、更に1週間の計画を立てる欄を設けている（写真1）。家庭学習や塾での学習、運動、習い事などの時間を色分けして記入し、計画を立てる。5学年

家庭学習計画&チェックカード  
★見通しをもち、計画を立てて取り組みましょう。

年 組	1 月 組						
	1月1日(水)	1月2日(木)	1月3日(金)	1月4日(土)	1月5日(日)	1月6日(月)	1月7日(火)
計	家での過ごし方の計画を立てましょう。						
	【赤】家庭学習の時間 【青】塾での学習時間 【緑】スポーツ等での運動時間 【黄】習い事の時間 (食事や就寝の時刻などをいれてもらいます)						
進	言われる前に、自分から進んで学習を始めた						
	決まった場所ですべての学習を済ませた						
進	テレビやパソコンゲームを消して学習できた						
	自分で決めた学習時間を守った						
進	学校で出された宿題を全部すませた						
	宿題以外の学習をした						
進	時間前や準備物を前日にそろえた						
	今日の学習時間	70分	60分	30分	90分	300分	480分
進	できればチェック						

1週間を振り返って、「がんばったこと」や「気づき」を記入しよう。

時間のある日は、この表を使って、1日1日の学習の様子を振り返り、自分の気持ちを表現しましょう。

できればチェック  
1日の学習の様子を振り返り、自分の気持ちを表現しましょう。

振り返り  
○進んでできた  
△できた  
△できなかった

写真1 4〜6年生の家庭学習チェックカード。チェック項目と1週間のスケジュールを作成する欄がある。時間の使い方が一目で分かるよう、色を分けて記入する



**清水裕子** しみず・ゆうこ  
敦賀市立中央小学校  
5学年担任。特別活動主任。「子どもと互いに丸ごとの自分を出して向き合える関係をつくりたい」



**滝本律子** たきもと・りつこ  
敦賀市立中央小学校  
教務主任。「褒めて励まして、子どもが持つ力を最大限に引き出し、一人ひとりが輝く時間を見付け出したい」



**長谷川明生** はせがわ・あけお  
敦賀市立中央小学校教頭  
「教頭は子どもと保護者と地域をつなぐ要となるポジションと心得、いつも誠実に対応していきたい」



**中西恵一** なかにし・けいいち  
敦賀市立中央小学校校長  
「子どもや教員の喜びや悲しみに共感できる校長でありたい。また子どもや教員には常に笑顔で接する」

担任の清水裕子先生は次のように話す。

「時間の使い方を目に見える状態にするこ  
とで、家庭学習に対する意識を高め、宿題を  
やったら終わりではなく、自主的な学習の習  
慣化につなげたいと考えています。また、1  
週間のスケジュールを立てる際には、学級で  
話し合いながら行うようにしました。友だ  
ちの計画を知ること、自分の生活を見直す  
きっかけになっているようです」

家庭学習チェックカードを導入して改めて  
分かったことが、子どもが多忙な毎日を過ご  
しているということだ。

「子どもたちが塾やスポーツクラブに通っ  
ていて、非常に忙しいことがよく分かりまし  
た。何も意識させなければ、多忙な毎日に流  
されて、自主学習など出来ないという実態を  
よく把握できました」(清水先生)

これまでは、保護者の負担を考え、あえて  
保護者の記入欄は設けていなかった。しかし、  
きちんとした生活習慣を身に付けるためには  
家庭の協力が不可欠であると考え、今後、家  
庭学習チェックカードを保護者懇談会で活用  
するなどして連携を強めていく。

### 3年生から「自学ノート」で 自分で考えた学習に取り組み

家庭学習の習慣化と共に、自主学習の質  
を高める指導として「自学ノート」(写真2)  
の取り組みも行う。これは、子どもが自由に

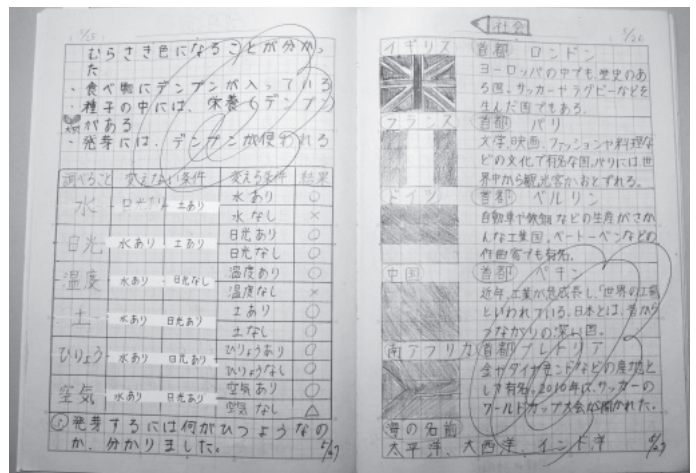


写真2 5年生の自学ノート。左ページは理科、右ページは社会の、その日の授業の内容を分かりやすくまとめている

テーマを設定して学習した内容をノートにま  
とめるというもの。3年生から徐々に取り組  
み、5、6年生は毎日提出する。提出したノー  
トは、担任がコメントを書き、放課後までに  
返却する。同校では、宿題は基礎・基本の定  
着を促すもの、自学ノートを使った学習は自  
ら求めて学ぶ姿勢を身に付けるものと考え、  
両者のバランスは担任に任せている。

「目標とする家庭学習時間は、学年×10分  
ですが、時間は同じだとしても、宿題と自学  
の比率は、学年や子どもによって変わると考  
えています」(中西校長)

3年生で自学ノートに取り組み始めた頃

は、漢字や計算の練習をする子どもが多いが、  
次第に授業の復習をしたり、新聞を切り抜い  
て感想を書いたり、理科の授業で行った実験  
を自分なりに深めて整理したりと、さまざま  
な学習に発展していく。中には、毎日、数時  
間も自学ノートに取り組み子どももいる。

「始めは続けることが何より大切です。次  
第に量が増え、質も良くなっていきます。慣  
れてきたら、『もう少し、こんな学習にも取  
り組んでみたら?』など、子どもが視点を変  
えて取り組めるような声掛けをしています。  
また、他の子どもにも参考にしてほしいノー  
トは教室にコピーを掲示して紹介していま  
す」(滝本先生)

なかなか自主学習が進められない子どもに  
は、教師が用意したプリントをノートに貼っ  
て取り組ませるなど、ハードルを下げて少し  
ずつ慣れさせている。その際、決して叱った  
りせず、辛抱強く、出来たことを褒めて認め  
る指導を大切にしている。長谷川明生(あけお)  
先生は、  
次のように話す。

「ノートを確認して子どもにも返すという指  
導の繰り返しですが、学習意欲の向上に確かにつ  
ながっていると実感しています。また、現在、  
敦賀市教育委員会では、家庭教育の充実を重  
要視し、全市的な取り組みを進めています。  
その取り組みに本校の具体的な取り組みをう  
まく盛り込みながら、家庭学習の充実を更に  
進めていきたいと思います」



## 家庭学習で学ぶ意欲を伸ばす

同校が目指すのは、自分の学びの軌跡を振り返られるような、「楽しく」「美しく」「自分の参考書になる」ようなノートだという。

### 全校一斉に行う昼学習で 自主学習が出来る基盤をつくる

同校では、自主学習を進める土台になるものとして、基礎・基本の定着にも力を入れる。「基礎・基本がしっかり身に付いているからこそ、疑問がわき、新たな学習をしたいと思うのではないだろうか。もちろん、基礎・基本がなければ、自分で学習を進めることも難しいでしょう」（中西校長）

中心となる取り組みは「はげみの時間」だ。毎日、昼休みの清掃後の10分間、漢字の書き取り、計算練習、短作文、視写に日替わりで取り組む。漢字と計算は時間内に自己採点し、短作文や視写は教師がチェックする。

教室のテレビ画面にはタイマーを表示するなど、子どもが短時間に集中して取り組める工夫も行う。また、6年間、同じ時間に学校全体で一斉に取り組むため、どの子どもも習慣になっており、落ち着いた雰囲気や午後の授業に入れるという良さもあるという。

子どもが進んで自主学習に取り組むようになるには、保護者との連携も不可欠と考えている。前述のアンケートでは、保護者から「どのように支援すればよいか分からない」という声があったため、12年度から、学校便りと

は別に、家庭学習について協力を呼び掛ける「学びの広場」を不定期に発行している。「学びの広場」では、授業内容を紹介し、保護者が子どもの学びの様子を分かるようにしたり、家庭学習のねらいや進め方などを分かりやすく発信したりしている。また、1年生の「音読カード」に書かれた保護者のコメントを、効果的な褒め方の例として「学びの広場」で紹介するなどしている。

#### ● 取り組みの成果

### 地道な指導を継続し 中学生以降の力にしたい

これらの継続によって、子どもたちに家庭で自主学習に取り組む習慣が身に付きつつある。特に6年生になると、自ら発展的なテーマに取り組める子どもが増えるという。

ただし、教師たちは、点数化できる学力の向上など、目に見える成果がすぐに表れることではないと感じている。

「成果が表れるのは、中学生になってからでしょう。地道に継続することが、生涯にわたる力につながるかと信じて取り組みを続けていきます。また、自分から学びたいという気持ちは、『何のために学ぶのか』を理解することから生まれると思います。授業や自主学習の指導を通して、学ぶことの意味を考えるきっかけを与えることにも力を入れていきたいと思っています」（中西校長）

## 学校をつくり、動かすチームワーク

### 校長の役割

本校の研究は、教務主任や研究主任が中心となり、それぞれの担任の個性や考え方を生かしながら取り組んでいます。校長の役割は、集約された成果や課題を評価し、再び先生方に戻すことであり、研究を推進するために、先生方の良い点を見付けて褒めることを心掛けています。

また、学校が更に前進できるように、地域や保護者に学校の取り組みへの理解を促し、積極的に情報を発信したいと考えています。

校長 中西恵一先生

### ミドルリーダーの役割

先生方に、研究を通して期待できる成果を具体的に伝え、「だから頑張ろう」と方向付けることを大切にしています。また、さまざまな取り組みや学力調査の結果を分析し、かみ砕いて説明して、一生懸命に取り組んだ成果を実感してもらうことも、私の役割だと思っています。

日頃から、先生方の悩みを聞き、共に考え、自分の担任経験を踏まえたアドバイスをしたり、方向性を示したりするように努力しています。

教務主任 滝本律子先生